第 32 回九州支部マンドリン独奏コンクール
第１位 原田湧気さんより

熊本大学大学院の修士２年　原田湧気です。
今回多くの方の支えのおかげで九州マンドリン独奏コンクールに１位をいただくことができました。ありがとうございました。
撥弦楽器に興味を持ったのは、中学で、TommyEmmanuel のギターソロの演奏に感動したこと。大学で、「高岳親王航海記」の合奏、福屋師匠のソロに感動したこと。が大きなきっかけです。
以来、音楽が好きで好きでしょうがなかった。自分も音楽ができるようになりたいと思いました。ただ大学から本格的に音楽し始めた僕は、技術力も経験も未熟さを強く感じていました。
しかし、それはきっとどんなに上達してもそう感じるはずです。（あの世界的な指揮者バーンスタインでさえ、毎日汗を流し、勉強し続けています。むしろ上達したほうが、より自分の演奏にシビアになっていくものかもしれません）なので開き直って、無茶をしてみよう。と思いました。
それが自分を変える一歩目だと思い、マンドリン独奏コンクールに挑戦しました。
実は、１位を取ることは、二の次でした。なぜなら、評価は現象であり、根本こそが大事だからです。
本当に大事なのはプロセス。評価や拍手は後からついて来るものだと思います。
音楽において上達の鍵になるのは、良い耳を持つことだと思っています。ただ、良い耳を育てるのには、時間がかかります。そこで熟練した耳をお借りすること。が必要だと考えました。僕にとってレッスンやコンクールは等身大の自分を全力で表現し「プロの熟練された耳をお借りする」絶好のチャンスでした。
そうしてコンクールに挑戦し始めて「2013 年 ２位なしの３位」「2014 年 １位なしの２位」
華々しく２度散りました。
でも諦めずにいられたのは１つ目にもう一度学べる機会をいただけたのだと思えたこと。
２つ目にオペラ「ファルスタッフ」を作曲を始めた８０歳のワーグナーの言葉「いつも失敗してきた。だから、もう一度挑戦する必要がある。」の言葉が僕を支えてくれたと思ってます。８０歳のワーグナーが ここまで挑戦するなら若い僕はなおさら負けてらんないぜ。ということです。
伴奏してくださったミノル先輩、松元さん、毎年挑戦する場を用意をしてくださった大口さんご夫婦、本当に気長にレッスンしてくださった福屋師匠、挑戦を支えてくれた両親、毎年見守ってくださった多くのみなさん…多くの方の支えのおかげで今回１位をとることができました。本当にありがとうございました。
最後に独奏コンクールに挑戦される方へ エールを送ります。
僕の場合、最初のコンクールに挑んだ動機は「音楽がすきで上手くなりたい」それだけでした。最初から誰かに届けたいとか、大きな目標があったわけではありません。もし自分を変えたい気持ちがあるならコンクールに飛び込んでみるのも手かもしれません。飛び込んでしまえば「自分の足で一生懸命すすむこと」だけ。単純です。
今の僕は、撥弦楽器の魅力を伝えられる真のアマチュアとして撥弦楽器のプレゼンターになることが目標です。
これまでもこれからもいい音楽できるように自分の足で一歩ずつ歩きます。
亀のように遅く、どこまでいけるかわからないですが、皆さん、今後も気長に見守っていただけると嬉しいです。

故市原道啓会長追悼の集いが開催されました

故市原会長追悼の集いが、7 月 21 日（祝）、熊本市内の ぺいあのプラスで開催されました。
集いには、北九州、福岡、大分、宮崎からマンドリン連盟の友人・知人のご参加があり、
協会のＯＧ・ＯＢ・現役およびご家族を含め、総勢５０名弱の集いとなりました。
集いは、軽めの食事と飲み物、思い出の語らいと即席の献上演奏で、あっという間に、時が
過ぎていきました。
会長が築いてきた協会を守り・発展させていくことを、胸に刻んだ一日でした。
集いに参加して頂いた皆様に、あらためて感謝の言葉を贈ります。ありがとうございました。

熊本マンドリン協会　代表　森　榮一